財務省のホームページ「日本の財政を考える」を見て

財務省のホームページに「日本の財政を考える」というコーナーがある。そのなかの「わが国の財政について」と題する映像と資料を‘熱心’に視聴した。

映像では、同省主計局の男性がワイシャツの袖をまくり上げ、フリップ（グラフなど）とホワイトボードを駆使して、日本の財政がいかに危機的状況にあるかを‘わかり易く’説明してくれる。それは、以下の６項目に小分けされている。

（1）わが国の財政の状況

（2）財政赤字の問題点

（3）財政健全化への取組み

（4）社会保障制度の見直し

（5）地方財政制度の見直し

（6）この国のかたちを考える

その云わんとするところをごくごくかいつまんでいえば、「このままいけば、ギリシャのように国家財政が破たんする」、「その主な原因は、他の国に例を見ない高齢化社会に向かっているからだ」と、長生きする国民が増えたのが悪いとでもいいたげな説明である。

ここで決定的に欠けているのが、消費税導入と引き換えに実施された大企業と大資産家への優遇策（法人税率の引き下げと所得税の最高税率の引き下げ、さらには株などの取り引きの優遇など）による税収の落ち込みについては、まったく不問にしていることである。

つまりは、「ルールなき資本主義」といわれる大企業本位の政治と経済の仕組みには指一本触れずに、国の借金（国債）が増えた責任を長寿社会に押し付けるという無責任きわまりないものである。

全編を視聴するにはそれなりの時間と努力が必要だが、福祉（年金や医療）を口実にした消費税率の引き上げの議論が現実味をおびてきただけに、多くの方が視聴して、感想を当ホームページに寄せて下さるようお願いしたい。（Ｋ）